

平成十七年度文部科学大臣奨励賞

友愛トイツ歌曲コンクール 本選会出場者決定!

特別企画
—ウイーン国際音楽ゼミナール参加体験記—



本コンクールは、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟の協力のもと、青少年の音楽文化の涵養を促し、ドイツ歌曲を学ぶ有能な若い声楽家の育成を目的としています。

音楽技能の向上と、音楽を通しての国際交流、そして音楽文化の発展に寄与することを目指して毎年一回開催され、本年が第十六回目の開催となります。

去る十月二十九日（土）、コンクールの第一次予選が、旧東京音楽学校奏楽堂にて行われました。

続いて二日後、第二次予選が日暮リサニーホール・コンサートサロンに於いてされ、参加者五十余名から、半数以下に絞られた一次予選通過者が臨みました。

全国各地から、多数の優秀な応募者を迎え、第一次予選の段階から、非常にレベルの高いコンクールとなっていました。

厳しい一次、二次の予選を通過したのは、十名の方々でした。

ここにお名前をご紹介申し、十一月三十日（水）に行われる本選でのご活躍をお祈りします。

・橘田有美
 (東京芸術大学三年在学中)
 増田桃子
 (国立音楽大学四年在学中)
 一般の部
 長峰由紀子
 (東京芸術大学四年在学中)
 一鐵久美子
 (札幌大谷短期大学研究科修了)
 吉田玲子
 (国立音楽大学大学院修了)
 國井陽子
 (尚美学園短期大学卒業)
 駒田敏章
 (東京芸術大学大学院修了)
 近野賢一
 (京都市立芸術大学大学院修了)
 藤谷佳奈枝
 松井ア希
 (東京芸術大学卒業)
 (東京芸術大学大学院一年)
 在学中、
 本選会のお知らせ
 日時・十一月三十日(水)
 開場・午後四時三〇分
 開演・午後五時
 会場・旧東京音樂学校奏樂堂
 交通・JR上野駅公園口下
 車十分
 入場料金・三千円
 *終了後「オーストリア勤
 労青年連盟器楽コンクール」入賞者ボタゴーズ・カリヤヴァさん(エリリスト)
 の演奏会もございます。是

平成十六年度友愛
歌曲（リート）コン
クレート本選会に出場された
から、高橋ちはるさん
薦を受け、毎年夏にされる「
「ウイーン国際音楽セミナー」
ました。体験記を
に寄せていただきま
ウイーン国際夏期音
ナールに参加して
高橋 私は、八月二十九
だ残暑厳しい日本
し、向かつた先は、
にとつて聖地といえ
昭和二十八年、故
郎元総理は、日比谷
にて追放解除の第一
て「友愛革命」を提
した。敗戦後の荒廢
本を再建するのは君
諸君の双肩にあると
べて演説しました。

樂大学のマルギット・クラウスホーファー先生です。レッスンは、滞在期間中毎日行なわれました。驚いたことに、歌う前の体をほどかれて、歌う前の中の身体が推進され、愛を及ぼす。歌いながら、呼吸法、実際に曲を歌う際の微妙なアプローチの仕方まで、実に様々なことを教えていただきました。まさに「眼からウロコ」の毎日でした。

講習会の「締め括り」として参加した演奏会では、ワインゆかりの作曲家であるモーツアルトのオペラ・アリアを歌わせていただき、大変勉強になりました。

日本友愛青年協会山一郎先生日比谷公人

独立行政法人国際協力機構 合宿セミナー

伯の「ヨーロッパは統合べき」との思いは現実となりました。「二十一世紀はアジアの世紀と言われています。故鷗山総理が提唱した「友愛精神」を基に、二十一世紀の国家像を小国総理自ら内外に、特に青年達に訴えていただきたい。強く求めるものです。

四十年前、東南アジアノルマの青年派遣団の役員として、各国を訪問交流し、吾が国の将来を考え、こそ大胆なアジア政策とその基礎を、現在の政治の皆さんに是非とも語りいただきたい。

同時に現在の若い政治家諸君の中から「二十一世紀通用するインターナショナルな国際政治家を育てて下さい。地球規模で全てを

計画の中でも特に、軽井沢友愛山セミナー」は、来日青年が日本青年スカッション、交流の夕べを通じて、「友愛精神実践の場」とも言ふにしているプログラムの一つです。このセミナーへの参加者を、広く待ちいたしております。併せて、日本セミナー参加者のご推薦をお願い申

え、吾が國の國益を若干犠牲にしても近隣諸国と共に歩む國民に犠牲を求めるような勇氣ある政治家が多く育つて欲しいと願つて居ります。

日本国の中青年だけではなく、中國・東南アジアの青年達を含めた国際塾「友愛政経塾」を創設し、友愛精神の実践を見せて欲しいのです。鳩山由紀夫・邦夫兄弟代議士に是非ともお願いしたいことです。

来年は一郎先生が命がけで取り組まれた「日ソ共同宣言議定書締結」から五十年の記念の歳です。日本友愛青年協会でも記念の事業が計画されています。

日口の青年交流事業も、由紀夫・邦夫両代議士に是非実現させていただきたいものです。

た。
レッスンの合間に、芸術の都を堪能すべく、オペラを鑑賞したり、美術館に足を運んだりと、充実した毎日を送らせていただきました。本物の環境の中での「本物に触れる」という、現地ならではの体験ができるところも、ウイーンでの日々の大切な思い出になりました。

独立行政法人国際協力機構（JICA）委託事業 合宿セミナー参加青年を募集

独立行政法人国際協力機構(JICA)が行う青年招へい事業による、第20陣「マレーシア農業グループ」(23名)を、1月31日から2月7日までの8日間(都内プログラム)、企画から実行まで本協会が担当することになりました。

計画の中でも特に、軽井沢友愛山荘で行われる2泊3日の「合宿セミナー」は、来日青年が日本青年と寝食を共にし、グループディスカッション、交流の夕べを通じて友情を育み、互いの文化を知るという「友愛精神実践の場」とも言える企画です。来日青年も楽しんでいるプログラムの一つです。

このセミナーへの参加者を、広く募集します。沢山のご参加をお待ちしております。併せて、日本友愛青年協会会員の皆様には、セミナー参加者のご推薦をお願い申し上げます。

事業内容…第20陣マレーシア農業グループ23名
共通プログラム…1月29日(木)～1月22日(日)
地方プログラム…1月23日(月)～30日(月)
都内プログラム…1月31日(火)～2月7日(火)
合宿セミナー…2月3日(金)～5日(日)
評価会…2月8日(水)

参加ご希望の方は**友愛事務局**までお問合せ下さい。
友愛事務局 TEL03-5684-3188/FAX03-5684-3186

なかなか訪れることが多い。遥かなるアフリカの地・ケニア。仕事での赴任ではあるが、仕事以外の面で自分が感じた様々なことを、「自分の言葉」で記したいと思ったから。

ケニアに来て、始めての週末。何よりも最初にしたこと、生活用品・食料品を調達するためにスーパーへ行くこと。行き先は、街の中心からは少し外れた「YAYAセンター」という大きなショッピングモール。ここでは、食料品・生活用品・電化製品・本・洋服など一通りの物は何でも揃う。買物に来ている人は、ほとんどが外国人。裕福と思われるケニア人も見かけたが、主にケニアに赴任している外国人が利用しているようだ。

さて、買い物であるが、幸いにも滞在先のホテルには食料品とトイレットペーパーなどの消耗品だけ。せっかく立派なキッチンが備わっているので、実際に買ったものは食料品とトイレットペーパーなどの消耗品だけ。せ

ケニア 週末日記

わっているので、料理に挑戦しようかと一瞬思ったが、それはほんの一瞬の迷いに終つた。とにかく、必要な最低限のものだけを買うことには、本屋でケニアの地図とスワヒリ語の辞書、電気屋で変換プラグ。自称、珈琲好きの私が、店内の珈琲豆コーナー（ケニア珈琲豆を主要輸出品としている）を熱心に見てみると、日本人のおっさんが「この豆がおいしいよ」と声を掛けってきた。話を聞くと、開発調査（JICAがケニアで実施している事業の一）の調査団としてケニアに来ていて、今日帰国するとのこと。「この豆」とは、ブルーマウンテンで育った。ブルーマウンテンは高級珈琲豆の一つであるが、ケニアではこの豆を栽培しているので、安く手に入るもの（アラビカ種とロブスター種）があつて、前者は高地でしか栽培することが出来ないので値段が高い、ということを何かのパンフレットで読んだ気が…。ケニアも一七〇〇メートルの高地に位置しているため、高級珈琲豆の栽培が可能になるのだろう。そんなこんなで勧められるままにブルマンを購入。

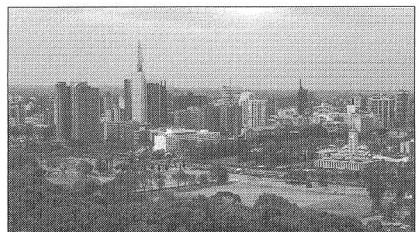
午後はこのおっさんに誘われるまま、というかほぼ強引に、ナイロビ在住の日本人が主催するパーティーに飛び入りで参加することになった。

パーティードといつても格式張つたものではなく、庭式でバーベキューの気軽なもの

のだった。参加者は誰でもいいらしく、日本人専門家、協力隊OB・OG、現役協力隊員、日本大使館の人、JICAの事務所員、ケニア人、日本語を操るケニア人（日本人とケニアで結婚された人）など総勢五十人ぐらい。オーナーの料理も非常に美味で、日本を發つてから一週間も経たないうちに寿司、秋刀魚、焼き鳥など伝統的な日本食を口にしてしまった。特に大根おろしをかけた秋刀魚は旨かつた。今が旬だしね。加えて「カラオケマシーン」で誰かが昭和の歌謡曲を歌っていた。ケニアでありながら、そこは完全に「日本空間」だった。

パーティの場で、二人の日本人から貴重な話を聞くことが出来た。一人は協力隊OBで、三十年前にナイロビに来て、ケニア人の奥さんと結婚、自動車整備会社を立ち上げ活躍している渋いおじさんで、もう一人はJICAが実施プロジェクトに専門家として長期赴任している医師の方。

前者のおじさんは、ケニアでの生活情報について色々と話してくれた。特にナイロビの治安の悪さを面白おかしく話してくれた。八ヶ月後に無事に日本に生還したいのなら、夜間は出歩かないこと、昼間も一人では行動しないことなど色々と戒めを頂いた。こっちでの生活に慣れるまでは行動範囲が極端に限られそうだ。（今、ホテルでこれを記している最中にも、外は真っ昼間にもかかわらず、バトカーレのサインレンが



喧しいし…とにかく安全だ
（第一）

次に、専門家で来ている医師の人からは、JICAのプロジェクトに参加した背景やJICAという組織について、更にはプロジェクトを実施していく上で難しいことなど、なかなか聞かれない貴重な話を聞き、酒を飲みながら伺うことが出来た。スーパーの珈琲コーナーで出会ったあのおっさんには感謝ですね。ちなみに、おっさんは飛行機に乗るために、パーティーマニアが始まる前に帰つてしまつたけど。一体何のために私を誘つたのだろ？

こんな感じでケニアの様子をお伝えしていきます。

読者の方が（読んでいたがいたとして）何か知りたいことがあれば、連絡下さい。自分の言葉でご報告します。クラヘリー！

（筆者：小川謙／JICA Aケニア事務所勤務）

今夏も我が家の一室で「軽井沢行き」のそもそもは、神田生まれ、江戸つ子氣質の妻が「贅沢は言わなから、夏の軽井沢にだけは毎年必ず連れて行つて」と言い出したことに始まる。どうやら、夏の信州をファミリーで廻つたときにつっかり気に入つてしまつたようだ。以来、会社の軽井沢クラブハウスに毎年通つて約三十年。初めの頃は列車で碓井峠越え、次に車で行かれる様になり、道路事情もバイバス、上信越道開通と、便利で快適にスピードアップした。その年月の間に、子供達も結婚、独立、孫も誕生、別世帯生活、家族が一堂に会する機会も少なくなつた。

私は定年退職後、妻と約束した軽井沢行きの継続に思案中の折、知り合いから紹介されたのが「友愛山荘」だった。急速電話（こちら）の意向を聞き入れて頂き、

友愛山莊 NEWS

妻にとっては、子供達がアミリーとのコミュニケーションをとるには、軽井沢が最高のロケーションとなるのだと思う。しかし最盛期の軽井沢で、連泊、子供も含め十人も一度に、しかも胸に描いている夢があつたのだと思う。だからこそ、土、日を入れて、三昧の計画ながら、友愛山荘は、すべてに応えてくれた。我が家が家の歴史を綴る上で、こんなに重要な桦割りを果たしてくれた友愛山荘、感謝である。堪えない。

友愛山荘の魅力は、何と、言つても全てが開放されて、いる自由である。加えてお世話してくださる方々の純朴で誠意ある対応、食事のメニューはとても食べ易く田舎の郷愁さえ感じさせてくれる。広い芝生の庭で、子供達が思いきり飛んだり跳ねたり、昆虫を追いかけるもボール投げも自由自在。テニスコートで家族対抗でボールを打ち合い、大汗をかきシャワーを浴びた後の爽快感。涼風を受けながら畠畠の上の寝覚、ラスでのコーヒー飲みながらの読書タイム、ああ天国は存在するのだ。

と、我が思いのままに妻

天体望遠鏡で広がる宇宙

鏡で広がる宇宙

(土) 軽井沢
休望遠鏡が設
置された。時まさに仲
間の十三夜の月が、顔を出し

を定めて、作
ーターもくつ
たのです。
たのです。
観測開始！ スゴイ！ き
れい！ 月のクレーターもは
つきり見えます。

今まで写真でしか見たことのなかつた「月の映像」が、目の前に広がっています。いつまで見ていっても飽きないほどの遠鏡は、日本の役員の方か

もので、常務を得て、山莊ど、細かい点も良く見えるのです。
ご寄贈くださった役員のS様、本当にありがとうございます。

い込んだので、雲に空。星も雲の陰。初観
ました。
***** 荘では、監理の都合上
常置してはおりませんので、
お詫びします。

お詫問時間まで
あきらめかけ
人までお申し込みください。
この希望の方は、事務局
管理

設置された天体観察はもとより、飛び来る小鳥たちも見つけ。ただしくわざわざ来ることだけはなさらぬ者です！ 詳しい説明が出来上がります。

友愛山莊に
月、星、の
莊の庭に遊
にもうって
太陽を見る
うに！ 危
明書は、来春